

大井 岳夫 県政だより

2023年3月号

「私の強烈な危機感」とは

3月10日、任期中最後となる定例会が閉会しました。

私は、任期中16回の定例会全てで一般質問を行い、問題提起、提言に努めてきました。その原動力となったのは、急速に進行する少子高齢化を受け「このままで、愛するこの地域を守っていけるのか」「このままで、次の世代にバトンを渡せるのか」という強烈な危機感です。そのために、今、やるべきこと、やらなくてはいけないことがある。一貫してそのような想いをもって、議会活動をしてきました。

大井岳夫はこれからも、そのような危機感の中からも希望を見出し、佐久地域・信州の可能性に挑み続けてまいります。



大型予算

令和5年度当初予算

約1兆456億534万円を可決

しあわせ信州創造プラン3.0 ～政策の柱に基づく主要事業～（※以下、数字の前の約は省略します）

持続可能で安定した暮らしを守る 1,529億円

住宅の「オールZEH化」／「信州の屋根ソーラー」の普及／主伐・再造林の加速化／防災・減災対策／流域治水対策／盛り土対策／健康づくりの推進／医療・介護提供体制整備／地域包括ケア体制推進／医師、看護職員、福祉・介護人材の確保／子ども等自殺対策／通学路等の安全対策／幼稚園、保育所、学校等の送迎バスの安全対策 ほか

創造的で強靱な産業の発展を支援 49億円

ICT企業・高度人材等の集積／創業・承継支援の強化／県産材の安定供給・流通体制の強化／企業との連携による奨学金返還支援制度の創設／女性デジタル人材の育成／農業人材の育成・確保／信州の森林で働く人材の育成・確保／建設産業を支える担い手の育成・確保／観光人材の確保／DX人材の育成・誘致／食の地域内循環の推進／伝統的工芸品産業の活性化／信州地酒の振興 ほか

快適でゆとりのある社会生活を創造する 98億円

森林サービス産業の振興／スマート農業、林業の推進／ICTを活用した二ホンジカの捕獲推進／マイナンバーカードの普及促進／地域高規格道路の整備／信州まつもと空港の発展・国際化の推進／リニアの開業を見据えたIT企業の誘致／障がい者の芸術文化活動の普及支援／第82回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上／障がい者スポーツの振興 ほか

誰にでも居場所と出番がある社会をつくる 53億円

結婚・子育ての希望実現／子育て支援の強化／質の高い保育の確保／大学生等に対する奨学金の支給／生活保護世帯の子どもの進学支援／ヤングケアラー支援対策の推進／「発達障がい情報・支援センター（仮称）」の機能強化／がん患者へのアピアランスケアの推進／「地域就労支援センター」の新設／障がい者の就労支援／女性が暮らしやすい社会の推進／女性起業家、就農者への支援／高齢者の活躍支援 ほか

誰もが主体的に学ぶことができる環境をつくる 142億円

「信州学び円卓会議（仮称）」の開催／特色ある私学・民間等と連携した教員研修プログラムを開発、学びの改革を担う教員を育成／認知や発達の特性に応じた学びの充実／「信州型フリースクール」認証制度の構築／スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置／高等教育の振興／中学校のスポーツ・文化活動における指導者の確保 ほか



Webサイト



Twitter

一般質問における問題提起、提言

■ 令和4年11月定例会より（一部抜粋）

子どもの命を守るための対策について

大井）まだ残暑の厳しい9月5日、静岡県の認定こども園で、3歳の幼児が送迎バスに5時間にわたって置き去りにされ、熱中症で命を奪われるという大変痛ましい事故が起きた。バス置き去りによる幼児死亡事故は、その都度全国的なニュースとなり、注意喚起がなされているにもかかわらず、なくなることがない。

二度と同じような事故を当県においても発生させないため、安全確認の徹底にどのように取り組んでいくか。

こども若者局長）今回の事故後、県では保育所、幼稚園等を対象に、乗車時、降車時の人数確認の有無、バス内の見回りの実施の有無など緊急点検の実施を依頼した。点検の結果、不備のあった施設を含む全ての施設に対して、年内をめどに順次実地調査を行っており、自己点検結果と改善結果の確認を行うとともに、必要に応じてさらなる改善を促していく。

県立武道館にて多様なイベント、大会の実施を

大井）2020年3月、大きな期待のもと長野県立武道館が佐久の地に開館したが、最大3,000人収容のホール（主会場）を有しているものの、コロナ禍などにより十分に活用されているとは言えない。県立武道館に今まで以上に多くの方が集い親しまれる施設となるためにも、アフターコロナを見据え、自主事業として魅力ある多様なイベントを計画的に開催すべきだ。

教育長）民間が持っているノウハウ、発想を生かし、全国規模のスポーツ大会をはじめ多くの観客が訪れる興行イベント等が開催できるよう指定管理者と連携していく。

■ 令和5年2月定例会より（一部抜粋）

信州やまなみ国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（国スポ・全障スポ）について

大井）2028年に本県で開催が予定されている国スポ・全障スポ開催にあたってはどのようなことを大切にし、発信していきたいと考えているか。また、どのような成果を得たいと考えているか。

知事）① 両大会の一体的な開催などを通じて共生社会づくりを加速させる。② 実施競技の普及や施設・用具の整備を通じて、スポーツの環境づくりを推進する。③ 長野冬季五輪のレガシーや信州の地域資源を活用したおもてなしの展開、魅力発信により本県のファンを増やす。④ 本県のSDGsの取組み、ゼロカーボン、DXといった視点も重視し、一過性のイベントではなく、長野県の発展につなげていきたい。

松本佐久連絡道路、上田諏訪連絡道路について

松本佐久連絡道路の実現に向け、国会議員に要望(R4.12.18)

大井）おおむね時速60km走行が可能となる両道路が実現されると、東信エリアと中南信エリア間の移動時間が短くなり、東信エリアから信州まつもと空港の利用者数が増える、中南信から県立武道館を訪れる方が増えるなどの効果が期待されるが、両道路実現による信州の可能性の広がりをどのように考えているか。

知事）信州まつもと空港、北陸新幹線佐久平駅、上田駅といった交通拠点へのアクセス向上や、上信越自動車道、中央自動車道、中部横断自動車道などとネットワーク化されることで、県内外との交流が促進され、更なる産業振興、観光振興に期待がかかる。大規模災害時には、緊急輸送道路や広域的迂回路としての機能も期待される。両道路の高規格道路への位置付けに向け、調査・検討を進めていきたい。



志賀荒船神社財産組合管理の林道などを現地調査(R4.11.20)



小倉少子化対策担当大臣との意見交換会を開催(R5.1.18)

中部横断道早期全線開通に向け、財務省、国土交通省に要望活動(R5.1.30)



新臼田小学校東側、国道142号に歩道橋が新設されました